

福井新聞 掲載

2025年2月9日 朝刊にて掲載していただきました



寄贈 & 教育支援

- 1 ボードゲーム
- 2 テレビゲーム
- 3 お菓子
- 4 恵方巻作り体験教室

「食育」の大事さ

SDGs 担当からのメッセージ

当社では、毎年寄付や寄贈を行っております。今回は子どもたちへの教育支援として、新たな取り組みを実施しました。

以前より寄贈などをさせていただいている児童養護施設「ほほ咲みの郷」様に、出雲グループ様ご協力のもと「恵方巻作り体験教室」を開催しました。今回は、子どもたちに日本の伝統文化に触れながら、食材の大切さを学んでもらうことを目的とし、この食育体験を企画しました。当日は、特別講師として、馬場料理長（出雲迎賓館・出雲記念館）をお招きし、恵方巻の由来や、栄養バランスを考えた具材の選び方をレクチャー。その後、子どもたち自身の手で恵方巻を作る体験をしてもらいました。

約30名の児童にご参加いただき、自分で作る楽しさや食べる喜びを感じてもらえ、笑顔があふれる時間となりました。今後もこのような教育支援活動を継続していく予定です。

また今回の活動に合わせて、子どもたちのリクエストで、ボードゲーム等の寄贈も行いました。子どもたちが遊びを通じてコミュニケーションを深め、協力する楽しさや発想力を育む機会になればと考えております。

「食べる力」＝「生きる力」と言われているように、子どもたちが様々な経験を通じて「食」や「学び」の大切さを実感し、健康でいきいきとした未来を築いていけるよう、これからも支援を続けてまいります。



子どもたちが挑戦した恵方巻作り（8日、福井市花野谷町）

恵方巻き作り「できた」

福井・児童養護施設の子どもも挑戦

福井市花野谷町の児童養護施設「ほほ咲みの郷」の子どもたちが8日、恵方巻作り挑戦した。ふくいきやサモンの野菜などの食材を入れ、自分だけの巻きずしを作って味わった。

労働者派遣業などのアイル（同市）が地域貢献活動の一環として企画。ほほ咲みの郷では3歳から高校3年生までの30人が生活している。食生活の大切さや日本の伝統文化に理解を深めてもらおうと恵方巻作りをテーマにした。結婚式場

福井市花野谷町の児童養護施設「ほほ咲みの郷」の馬場康成料理長が講師を務めた。馬場料理長は子どもたちに恵方などについて説明した後、古代米の酢飯をノリに載せ、具材を並べてきれいに巻く方法を教えた。子どもたちは酢飯を丁寧に広げて、「いい年」になるよう用意された11種類の具材を入れて力強く巻いていた。完成すると「ほくのすしができた」と喜んでいった。同社はボードゲームなども同施設に寄贈した。（前田 卓）